

令和8度 ひっころ保育園 事業計画

【事業計画の概要】

基本理念 《子どもが子どもらしく生きる》

保育園の生活を通して、平和な社会を創造する。そのために、子どもたちが人とのつながりを大切にしながら、毎日を明るく楽しみながら生きていくことができる自立した力をそれぞれで身に付けていけるようにする。

長期計画 ……主体的な保育の見通しをもって行う(保育を考えられる保育士を育成する)

- ・ 保育について
 - ①自分たちで学ぶ姿勢を継続する（勉強会を行うと同時に自分たちで学びを作り出す。
 - ②生活を中心に異年齢保育を構築する。
 - ③やったことのない保育に挑戦する（年間通して一人の子をみんなで 保育する）
 - ③クラスごとの毎日の振り返りの中で保育の質を高める

- ・ 食育について …… いつでも初心に立ち返ろう「食べることを 楽しめる子」



「たのしく おいしくたべる」

食べたいものを 食べたいだけ 楽しくたべる

「食べる力・生きる力を育てる」「異年齢で食べることを楽しむ」

「食べることを直接保育につなげる」（職域を超えて保育を共有する）

※保育士と栄養士が共通認識を持って環境設定を重点において食育計画を立て実施する

- ・ 職員の研修について
 - ①自分たちで学ぶ姿勢を構築する
 - ②勉強会を行うと同時に自分たちで学び作りをする
 - ③職種の違いを相互に理解・協力して園全体で一人ひとりの子どもの見方を検証し保育の質を高める
 - ④係りの仕事（保育）を職員全員で行う
 - ⑤振り返りの定着
- ・ 安全・衛生について …… 地域と合同で避難訓練を行い、自園での防災訓練を色々な角度から検証する。また、防災管理者の数を増やしていく。
※避難経路・手順その他、一つずつ丁寧に計画を立て、共通認識を持って取り組む。

短期計画・・・残すものと 除くもの

自分たちのやりたい保育を保障するための保育展開図を構築する



子どもも、保護者も参画できる行事へ

- ① 異年齢保育を通じて園全職員で子どもへの保育を共通認識する。
- ② 伝統として残すものと 気候・その他の環境の変化により取り除くもの



残すものと 除くもの

ぴっころ保育園 令和8年度 事業計画

1 心地よい環境を

みんなで保障する
個別最適な環境を保障する

2 考える保育を深める

ねらいと意図を含めて 伝統とするもの しないもの

3 みんなが主体的に参加できる 行事を作ろう

全員参加で子どもの成長を楽しむ

4 マナーを守って 楽しい食事

職員が居ても居なくても 楽しい食事

5 学びを深める

どんな学びが自分にとって 園にとって必要か みんなで考える

6 会議を整理する

ここに説明を入力。

- ③保護者との関係性の充実（おたより・連絡帳・児童票等の書類の見直し）デジタル化
（ルクミーの導入）
 - 発達の道筋や順序と保育内容とを合わせた形で記載する
 - 写真や映像を活用し日々の記録などを通して肯定的な視点で共有する取組を進める
- ④世田谷ブロック 保育展開図を構築する
 - 行事の中に参画と裁量権・常に全員参加を目標に置く
- ⑤業務マニュアル見直しと同時に新しい保育を検証する（作業から保育へ）

【保育計画のポイント】

保育の方針 《私は私。でも、私は私たちの中の私。》

子どもの気持ちを尊重し主体性を育てる保育

- 多様な価値観の中でお互いを認め合い 子が育つ群れを形成する
- 子どもの主体的な活動の場を保障する（色々な企画をみんなで構築する）
- 一人ひとりの特性に応じた保育（移行・異年齢保育）の検証

一人ひとりを大切にする保育・・・「ひとり」を見ながら「みんな」を見る

「みんな」を見ながら「ひとり」成長をきちんと評価する

そして「ひとり」と「みんな」の関係を根気強く

職員みんなでみまもっていく

※計画を立てる事を担当制とせずチームで子どもの進行状況に合わせる事ができる、幅を持った見通しで行ってみる（保育の見直し）

保育目標

三つの柱

1. 知識及び技能の基礎を養う
2. 思考力・判断力・表現力などの基礎を培う
3. 学びに向かう力・人間性を養う

乳児の3つの視点

1. 健やかに のびのびと育つ
2. 身近な人と 気持ちが通じ合う
3. 身近なものと 関りと感性が育つ

【保育の方法】

見守る保育

保育の目的を実現するために、私たちは、環境を通して子どもの発達を保障する。これは、子どもの自ら発達しようとする力を引き出し、可能な最大限度まで発達させることを意図した環境を用意した保育を行う。

1. 生活と遊び・ゾーンとコーナー保育

子どもが自発的・意欲的に関われるような環境の構成と、そこにおける子どもの主体的な活動を大切にする。

2. 一斉保育から選択する保育

子ども一人ひとりの発達について理解し、一人ひとりの特性に応じ、発達の課題に配慮して保育する。

3. シティズンシップ

子どもは、多様な大人、子ども同士の体験から、社会を学んでいく。

4. 見守る保育

保育者は、子どもが自発的、主体的、多様な人との関係の中で活動するために、いつでも駆け込める信頼できる存在にいること。

5. 異年齢児保育

子ども同士の中で刺激し合うということから、様々な年齢との関わりを保障する。(見て、真似て、関わって、教わって、教えて、一緒にやって)

6. チーム保育

子どもは、職員のチームによって、多様な社会との関わりを学習する。

7. インクルージョン保育

子どもを、男女、しょうがい、年齢による刷り込みを持たない。

8. やってあげる保育から見守る保育へ

子どもを自立していくこと、自己の意思を表現することを保育者は妨げない。

9. 保育者の人権

保育者は、子どもに奉仕をしたり、世話をする人ではなく、一人の人格を持った人として子どもと共に生活する。

10. 保育の原則

乳幼児基本法(案)に則った保育を展開する。

【食育計画のポイント】

- ★ 見て・学ぶ 異年齢で楽しく 思いやりの心で 食事をする
- ★ いつでも 成功体験で終わらせる

配膳計画 楽しく食べる

職員の休憩時間を
保障する

STEP 4

喫食量を上げ 食事を楽しむ
ランチルームのルールや
マナーが定着する

STEP 3

取り除く → 少しずつ挑戦(味・切り方・調理の仕方 etc)
② 時間内に食べ終わることができる量を観察・確定
※ 2つの選択 多いか? すくないか? ……取り除くは無し (少しずつ喫食を上げる)

STEP 2

偏食の調節
量の確認・確定 ① 嫌いなものは除いてもらって、時間内に食べ終わる

STEP 1

在園児は3月の様子を考慮しながら 規定量より少ないものと 規定量
お替りの量を 細かく観察 時間とも関連図けて観察
新入園児は 細かく要観察
担任と日々細かくチェック ワークス活用……共通認識
配慮の子の食育状況を観察・データ化する

ランチルームでは
子どもは決して
失敗しない

【異年齢保育・・・配慮の必要な児童を保育の中心において保育するということ】

★ 発達課題に合った 心地よい環境で主体的に生活する

【行事の日程に 気候を配慮・職員の仕事効率化を計る】



【保健計画のポイント】

全職員の連携と協力のもと、子ども一人ひとりの健康保持増進、安全の確保とともに子どもを取り巻くすべての大人の健康と安全の確保に努める。

- 子どもの健康状態や発育・発達の状況について常に把握し、異常や異変を認めた時は速やかに対応する。
 - ① 入園前健診
 - ② 身体測定
 - ③ 傷病歴 予防接種歴の把握と管理
 - ④ 日常の救急対応 衛生管理
 - ⑤ 公的な機関との連携(子ども発達支援センター。療育センターなど)
- 定期的な身体測定と健康診断の実施
 - ① 内科健診(嘱託医による) 年2回(春と秋)／1歳児以上
 - ② 乳児健診(嘱託医による) 月2回(年24回)／0歳児クラスのみ
 - ③ 歯科健診(嘱託医による) 年1回(春)※それぞれの結果は、一覧掲示と個別に報告する。
- 健康に関する情報の発信
 - ① ほけんだより(毎月)
 - ② 流行感染症罹患状況の把握と集計 感染症定点報告の掲示(毎週)
 - ③ 定期予防接種の推奨(インフルエンザワクチンなど)
 - ④ 職員に向けて 救急対応に関する定期的な勉強会の開催
- 職員や配慮の必要な保護者の健康管理
 - ① 日頃から積極的にコミュニケーションをとり、相談しやすい環境づくりを心掛ける
 - ② 健康診断 インフルエンザワクチンの予防接種などの計画管理と実施
 - ③ 便細菌検査の実施と管理(毎月)
 - ④ ストレスチェックの実施※職員間や職員と保護者のコミュニケーションが円滑に図れているか常に観察し、園長に報告・相談の上、必要に応じて援助や介入を検討する。

【衛生計画のポイント】

- 子どもひとりひとりの発達状況に応じた衛生活動の援助と管理を心掛け、健康で快適な日常生活が送れるように努める。
- ほけんだよりや掲示などで衛生に関する知識の発信をする(保護者向け)
- 流行感染症の起こる時期や動向に応じて、職員への注意喚起をする
- 衛生について子どもたちにわかりやすく説明、実験あそびなどで興味や関心を引き、行動・知識を伝える
- 園庭や建物などの危険個所や修繕が必要か常にチェックし、適切に対応する

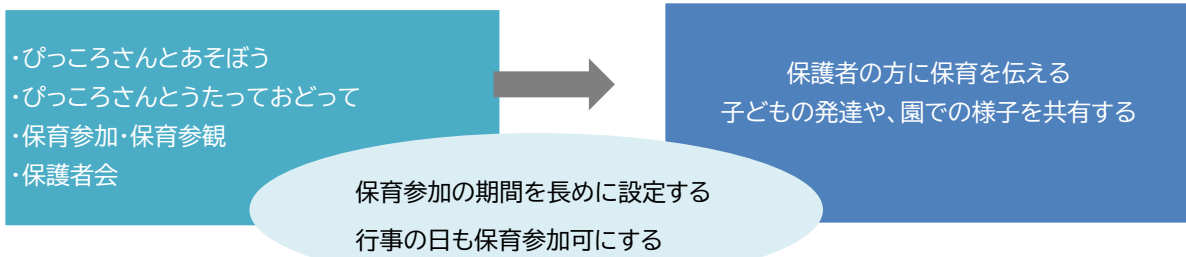
【安全管理・防災管理】

非常時に備えて全職員が一体となって、危機管理及び防災対策について考え、日常業務に緊張感をもって従事する。そのために次のような計画を作成し、実施していく。

災害訓練	・毎月1回以上、地震や火災を想定した避難・消火訓練を行う ・1年間を通して保育の中のさまざまな場面を想定して行う ・マニュアル化する必要のあるものとそうでないものを明確化し、職員が自分たちで考えられるようにする
不審者・防犯訓練	・散歩先で不審者に遭遇した想定で、訓練を実施する
震災を考える日	・災害発生時の園へのお迎え方法や連絡方法を、保護者の方にも改めて考えていただく機会とし、アンケートを実施する ・震災発生時のお迎えを想定し、訓練を実施する

【家庭との連携】

○保育の理念・方針・内容を丁寧に発信する



【研修計画】

保育の質向上への重点ポイント

異年齢保育の定着

＊園内研修・・・「アセスメントを学ぶ」

関わる職員みんなで共通認識を図る

＊外部研修・・・ギビングツリー・子ども保育環境研究所・リトミック研修センター

防災管理者研修他

＊キャリアアップ研修

各種団体主催研修

【自己評価】

保育の質を高める事を目的に人事考査と合わせて自己評価を行う。また、年度末には全職員が参加して施設自己評価を行う。施設自己評価についてはホームページに記載する。

※ 業務目標・成果シート

【修繕計画】

内 容	時 期	金 額
網戸	6 月	3 0 万
床暖房	交渉中	交渉中
スチームコンベクション	故障次第	5 0 万

【物品・設備備品購入計画】

内 容	時 期	金額
スチームコンベクション	故障次第	5 0 万
冷房機		

【職員の配置】

事務所	【園長】 1 名 【主任保育士】 1 名			【事務】 1 名・非常勤 2 名 【用務】 非常勤 1 名
ノウム	3 名	エルフ	3 名	【給食】 3 名・非常勤 1 名 【フリー】 1 名・非常勤 3 名
ピクシー	3 名	コロボックル	4 名	

【園児構成】

年齢	4 月在籍数	途中受入数	クラス編成
5 歳児	1 1	2	たいよう
4 歳児	1 3	0	だいち
3 歳児	1 3	0	かぜ
2 歳児	9	0	ピクシー
1 歳児	8	0	エルフ
0 歳児	7	0	ノウム

コロボックル

【年間行事計画】

月	計 画	月	計 画
4 月	ウェルカムパーティー	10 月	ぴっころさんとあそぼう
5 月	保護者会	11 月	園外保育・内科検診
6 月	歯科検診・内科検診	12 月	点灯式・クリスマス会
7 月	七夕・流しそうめん	1 月	もちつき・進級お引越し
8 月		2 月	節分
10 月	震災を考える日	3 月	ひなまつり・3 園スポーツ大会 お別れ遠足・お別れ会食会・卒園式

【定例の行事】

毎月	身体測定・乳児健診・避難訓練
----	----------------